

日本歯周病学会第5回近畿地区臨床研修会報告

主催:特定非営利活動法人 日本歯周病学会

共催:一般社団法人 滋賀県歯科医師会

大会長:中村彰彦(一般社団法人 滋賀県歯科医師会会長)

実行委員長:村上伸也(大阪大学大学院歯学研究科教授、日本歯周病学会理事長)

運営事務局:大阪大学大学院口腔治療学教室(担当:北村正博、山下元三)

日時:令和2年2月2日(日曜日) 10:00~15:00

会場:ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)

テーマ:最新の歯周病学に学ぶ

プログラム

・教育講演I 「リグロス®を用いたフラップ手術の基本的術式と臨床のポイント」

北村正博 (大阪大学大学院准教授)

・教育講演II 「アメロジェニンペプチドによる硬組織形成~Emdogain®発売から20年の時を経て~」

嘉藤弘仁 (大阪歯科大学助教)

・特別講演(ランチョンセミナー) 「リグロス®臨床例から見えてきたこと」

浦野 智 (大阪市開業、日本論証歯周病学会前理事長)

・シンポジウム(歯科衛生士教育講演) テーマ:「侵襲性歯周炎」

村上伸也 (大阪大学大学院教授)

「歯周病の新分類から侵襲性歯周炎を再考する」

高山真一 (天津市開業、滋賀県歯科医師会学術部理事)

「侵襲性歯周炎患者への対応と治療の実際」

藤原千春 (大阪大学大学院助教)

「全遺伝子解析から、侵襲性歯周炎を考える」

水野智仁 (広島大学病院講師、診療准教授)

「侵襲性歯周炎の家族集積を考える」

第5回近畿地区臨床研修会が、令和2年2月2日(日)に滋賀県大津市の滋賀県立県民交流センター(ピアザ淡海)で開催されました。例年この時期の大津市は降雪などが危惧されるのですが、今年は暖冬で天候に恵まれ、今回の臨床研修会には、238名(歯科医師:135名、歯科衛生士:99名、その他:4名)の参加者があり、歯周組織再生療法や侵襲性歯周炎に関する最新の情報の提供と活発な議論が展開されました。

「最新の歯周病学に学ぶ」をテーマとした今回の臨床研修会では、午前の講演として、嘉藤弘仁先生と北村正博(から、20年以上の使用実績を持つエムドゲイン®と日本発世界初の歯周組織再生薬リグロス®を用いた歯周組織再生療法に関して、作用機序などの基礎的事項から臨床における使用法や治療成績などに至る最新情報の提供がありました。そして、昼食時には特別講演(ランチョンセミナー)として、浦野 智 先生に「リグロス®臨床例から見えてきたこと」と題して、リグロス®を用いた歯周外科処置における硬組織や軟組織の反応についての興味深い知見について多くの症例を交えてご講演いただきました。さらに、午後には、「侵襲性歯周炎」に関するシンポジウムが開催され、村上伸也先生、高山真一先生、藤原千春先生、水野智仁先生の4名にご講演いただき、国際ワークショップで策定された歯周病の新分類における侵襲性歯周炎の位置付け、侵襲性歯周炎の臨床的な特徴や全ゲノム遺伝子診断、家族性に発症する侵襲性歯周炎の遺伝子診断などについての最新の知見をお話いただきました。そして、その後の総合討論において、侵襲性歯周炎の診断や治療法の将来展望に関する活発な議論が繰り広げられ盛会裡に研修会が終了しました。

最後になりましたが、研修会の企画から準備、運営に至るまでご尽力いただいた中村彰彦先生(滋賀県歯科医師会会長)をはじめ、滋賀県歯科医師会の各先生方に深く感謝いたします。また、ランチョンセミナーにご協力いただいた科研製薬株式会社、企業展示にご協力いただいたサンスター株式会社とライオン歯科材株式会社の関係者の皆様に深謝いたします。

‘(大阪大学大学院歯学研究科 歯周病分子病態学 北村正博)

